

平成 29 年度事業報告

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

【市民、患者向け】

1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行

月刊の協会誌として、患者、家族、糖尿病予備群に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行う。12冊／年発行した。

1-2 糖尿病関連書籍の発行

「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行した。

1-3 全国糖尿病週間の実施

期間：11月13日（月）～19日（日）

テーマ：重症化予防

標語：糖尿病 手遅れ防ぐ 早めの受診

日本糖尿病学会との共催で、各都道府県糖尿病協会と共催で糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施し、約70,000人が参加した。

1-4 啓発イベントの実施

- ・「糖尿病啓発フェスタ」（青森）11月26日 於：イオンモールつがる柏店

HbA1c測定、専門医によるトークショー、エクササイズ、クイズなどを実施し、約310人が参加した。

- ・「糖尿病予防キャンペーン」（滋賀）10月15日 於：滋賀県立陶芸の森

糖尿病の講演、医療相談ブースを設置。約400人が参加した。日本糖尿病財団との共催は今回で終了した。

- ・「HbA1c認知向上運動 2017」（埼玉）11月12日 於：イオンレイクタウン kaze

サノフィ株式会社との共催にて、専門医によるトークショー、HbA1c測定、糖尿病の展示等を行った。約400人が参加した。

- ・「チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト」

6～7月募集、8月一次審査、10月8日最終審査／表彰式を実施し、栄養を学ぶ学生から55校、387レシピの応募があった。入賞作品12レシピを掲載した「レシピブック」を制作し、全国糖尿病週間の期間中の配布に加えて、糖尿病連携手帳を購入した市町村を通じた配布も行った。

- ・「糖尿病とおいしく生きようプロジェクト～いきいきライフクッキング」（全国）10-12月

MSD株式会社との共催にて糖尿病の講演と調理実習を組み合わせた料理教室を20ヶ所で開催し、342人が参加した。

- ・クルソグ（Quality of Officeworker's Life So Good）プロジェクト

三菱地所と野村総合研究所が進める健康経営・働き方改革を支援するWell-being推進プロジェクトに参加し、東京商工会議所プレミアムフライデーイベントおよびラジオ体操での会員特典の資材（糖尿病小冊子、レシピブック等）の配布、生活習慣病予防セミナーを実施した。

1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施

東京駅丸の内駅舎をシンボルライトアップとして、全国200ヶ所でブルーライトアップを実施。

イベント実施数は約 170 ヶ所、読売新聞の紙面広告と朝日新聞のウェブサイト広告で世代別の啓発情報を発信した。公式ポスターも一新した。

世界糖尿病デー実行委員会と日糖協共催で、11月14日に皇居一周のスロージョギングイベントを実施した。

1-6 Team Diabetes Japan

タートルマラソン（10月15日）、JAL ホノルルマラソン（12月10日）など国内外の大会に約 200 人が参加し、マラソンを通じて糖尿病予防や治療についての啓発を行った。TDJ の活動参加者から日糖協に対する寄付を得た。

1-7 「歩いて学ぶウォークラリー」の実施

運動の重要性を周知する目的で、全国 36 ヶ所で「歩いて学ぶ 糖尿病ウォークラリー」をノボ ノルディスク ファーマ株式会社と共催した。参加者数は 5,019 人となった。25 周年を迎えたことから、スロージョギングの採用や協力企業による展示、開催地の行政との協業など、新たな取り組みも加えた。

1-8 新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及

ブルーサークルを用いた新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズについて検討した。

1-9 就労と治療の両立支援

糖尿病患者の就労と治療の両立を支援する目的で、日糖協 e ラーニングに産業保健スタッフ向けコンテンツを提供した。広報活動として、「勤労者医療フォーラム」（2月18日）を共催した。

1-10 介護支援者向け

日本糖尿病療養指導学会で、医療と介護の連携に関するプログラムを設けて、介護施設における糖尿病患者支援に対する理解を促進した。

1-11 啓発資材の作成

糖尿病教室などで使用することができる啓発資材を企業との協働で制作・監修した。

「食事を考える」Vol.1～3 大正富山医薬品株式会社

「糖尿病総論」「食事療法・運動療法」「薬物療法」「合併症」小冊子 武田薬品工業株式会社

1-12 KiDS プロジェクト

教育現場への糖尿病啓発を目的に、サノフィ株式会社と協働で教職員向け訪問型糖尿病教室を企画した。初年度は養護教諭の学会などで広報活動を行い、プロジェクトの周知に取り組んだ。

【医療者向け】

1-13 「DM Ensemble」の発行

医療者を対象とする「糖尿病療養指導のための DM Ensemble」を 4 冊／年発行した。糖尿病チーム医療に従事するメディカルスタッフやかかりつけ医、歯科医師登録医のスキルアップに役立つ雑誌を目指した。また、第 5 回日本糖尿病療養指導学会の報告集は、「DM Ensemble」別冊として発行した。年間購読者数は、3,308 人となった。

1-14 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開

日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度並びに歯科医師登録医制度を推進し、専門医とかかりつけ医、歯科医師との連携強化を図った。登録医：1,613 人、療養指導医：2,711 人、歯科医師登録医：3,289 人となった。

登録医・療養指導医、歯科医師登録医の学習機会提供のため、e ラーニングによる教育システム

を構築した。

1-15 日糖協 CDE ネットワークの運営

糖尿病チーム医療を支援するため、地域糖尿病療養指導士（CDEL）養成団体 38 団体に対し、計 28,000,000 円の補助金を支出したほか、規約・認定試験問題、教育資材の提供を通じて活動活性化と養成団体の新規設立を支援した。2 団体が新たに設立され、団体数は 53 団体、認定者数は 21,693 人となった。

第 5 回日本糖尿病療養指導学術集会で CDEL 団体の情報交換会を行った。

1-16 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及

「糖尿病カンパセーション・マップ™」を使用して療養指導を行うスタッフを育成するためのトレーニングを全国 11 か所で実施し、260 人の医療スタッフが参加した。平成 22 年からの累計受講者数は 1,968 人となった。日本イーライリリー株式会社の協力を得た。

1-17 糖尿病療養指導カードシステム®を活用した療養指導の普及

「糖尿病療養指導カードシステム®」の普及に向け、商標登録を行った。全国 18 か所で理念や指導方法を学習する講習会を実施し、914 人（うち、トレーナー145 人）の医療スタッフが参加した。受講要件を緩和したほか、地域からの要望に応じた講習会開催方式も導入した。ノボ ノルデISK ファーマ株式会社の協力を得た。

1-18 日本糖尿病療養指導学術集会の開催

糖尿病療養指導者の教育と情報交換を行う目的で、第 5 回日本糖尿病療養指導学術集会（7 月 29-30 日：国立京都国際会館：安西慶三会長）を開催し、1,486 人が参加した。「あなたの一歩が患者さん、施設、地域を変える」をテーマに、多職種によるディスカッションを通じて相互理解を深め、糖尿病療養指導のコンセンサス確立とチーム医療の発展を目指した。

1-19 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDE を対象とした講習会を 741 件について、資格更新対象講習会としての認定を行うとともに、医療従事者を対象とした糖尿病に関する適正医療の普及・啓発に向けた地域での活動を支援した。

1-20 医療者・介護支援者の連携強化

高齢の糖尿病患者の QOL 向上を目指し、糖尿病非専門医とケアマネジャー向けの勉強会や糖尿病テキストの作成を検討した。

1-21 医療者向け資材の作成・普及

- ・糖尿病療養指導に関わる医療スタッフの教育用 DVD シリーズ「チームで考える！療養指導・支援のポイント」で「合併症編」を制作し、各友の会ならびに登録医・療養指導医をはじめ、広く医療従事者、医療機関に配布した。アステラス製薬の協力を得た。
- ・糖尿病教室などで活用できる、患者参加型療養支援 DVD「食事を考える」3 巻シリーズを制作し、各友の会をはじめ、広く医療従事者、医療機関に配布した。大正富山医薬品株式会社の協力を得た。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・「経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究」(UNITE Study) 論文化の作業を行った。

- ・「65歳以上の高齢者2型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験」(START-J)
医学雑誌 *Diabetes, Obesity and Metabolism* に論文が掲載された。
- ・「インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-」(I-UNITE Study)
全症例の追跡期間が12月末に終了し、データ回収を行った。
- ・「トログリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-」(AYUMI)
症例登録が2月末に終了し、現時点での情報を第61回日本糖尿病学会年次学術集会に演題投稿した。

2-2 若手研究者に対する助成

糖尿病医療に関わる若手研究者を育成し、日糖協活動の担い手を創出することを目的に、臨床的・基礎的な研究を行う若手研究者6人に対し、研究費の助成を行った。
メディカルスタッフの療養指導に関する研究支援を目的に、新たな研究助成を設定し、7人に対し研究費の助成を行った。

(3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養支援事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の糖尿病友の会の活動を活性化するためのリーフレット等を作成・配布し、会員の療養生活や会員相互の交流を支援した。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

企業の協賛を得て、糖尿病連携手帳：1,358,000部、自己管理ノート：1,039,600部、CSIIノート3,000部、糖尿病IDカード：24,000部、英文カード：3,000部を製作し、医療機関、薬局等を通じて患者に配布した。

糖尿病連携手帳の提出を促進する卓上立札を制作し、医療機関に配布した。

糖尿病連携手帳活用策の一環として、自己管理を応援するシールを制作し、医療機関に提供した。

3-3 小児1型糖尿病対策

・小児糖尿病キャンプの主催

1型糖尿病患児の医療・生活教育を目的とするキャンプを全国50か所で主催し、患児1,124人、ボランティアスタッフ5,050人が参加した。Tooth Fairy(日本歯科医師会と日本財団共同事業)の支援を得て、実施団体に対し、16,062,818円の補助金を支出した。

・サマーキャンプカンファレンスの開催

小児糖尿病キャンプの標準化とレベルアップを図るため、第5回日本糖尿病療養指導学術集会時にキャンプ実施責任者会議と活動紹介ポスターによる情報共有を行った。

・小児糖尿病キャンプの成果に関する調査

患児・家族を対象とする調査を日本財団の支援を得て実施し、小児糖尿病キャンプがもたらす効果を検証した。

・日本糖尿病学会、日本小児内分泌学会と合同で「1型糖尿病に関する移行期委員会」を設立し、移行期医療のあり方の検討を開始した。

3-4 小児2型糖尿病対策

小児糖尿病キャンプでの2型糖尿病患者の参加受入れを行った。

3-5 インスリンメンター制度

新規に4人のインスリンメンターとシニアメンターを任命した。小児糖尿病キャンプに9人のインスリンメンターが参加したほか、KiDSプロジェクトの出張プログラムで、専門医とともに教職員への情報提供を行った。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

IDF Congress (12月3-8日・アラブ首長国連邦アブダビ)に参加し、IDF総会やWPR Council Meetingに出席した。各国の団体が展示を行うGlobal Villageで日本での糖尿病対策と日糖協活動を紹介した。

4-2 IDF Taking diabetes to heart

IDFが実施する糖尿病と心血管疾患に関するアンケート調査に協力して、会員に回答協力を依頼した。

4-3 AASD

- ・運営助成金を支出するとともに、事務局業務を支援した。
- ・9th AASD Scientific Meeting (5月19-20日・名古屋)の開催を支援した。
- ・AASDが実施するアジア地域のフットケア・栄養プロジェクトへの協力をを行い、国内で実施したプロジェクト会議(5月21日、2018年2月24-25日)の運営を支援した。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

入会促進策として、会員特典の資材(糖尿病小冊子、レシピブック等)を制作、配布した。

5-2 サポーター制度の周知

小児糖尿病と国際支援事業のサポートを目的として、個人の賛助会員であるサポーター加入を推進し、平成26年7月からの累計人数が10,606人となった。

5-3 他団体との連携

・CDEJおよび地域のCDE組織

日本糖尿病療養指導士認定機構と糖尿病療養指導学術集会の共催等で連携した。

各地で組織されている「地域糖尿病療養指導士」養成団体と連携し、CDEネットワークによる地域のCDEの育成協力と活動支援を行った。

・日本歯科医師会

日本歯科医師会との合同事業である歯科医師登録医制度のさらなる充実を目指し、講習制度の柱となるeラーニングの導入準備を行った。同時に制度の認知向上を目指し、名称を「登録歯科医」に改める準備を行った。

・日本糖尿病対策推進会議

日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、推進会議加盟の各団体と連携して糖尿病性腎症重症化予防プログラムへの協力を行った。

・ライオンズクラブ国際協会

ライオンズクラブ国際協会との合同委員会を設立し、相互の会員への周知と糖尿病啓発を合同

で実施することを確認した。

5-4 災害時危機管理対策

- ・防災意識啓発ミニチラシ配布

防災意識啓発ミニチラシ配布の必要性を広報し、配布協力への依頼を行った。

- ・日本糖尿病学会と連携して、災害時の糖尿病医療支援組織「DiaMAT」の設立を承認した。

5-5 広報事業

- ・日糖協の認知度を向上させ事業効果を高める目的で、マスメディアに対する広報として、プレスリリースを8本配信した。「KiDSプロジェクト」が共同通信の配信により、多くの地方紙で掲載された。

- ・ホームページ、facebook、メールマガジンでの情報発信

ホームページでの迅速な情報掲載に注力するとともに、動画掲載、各種申込み画面の充実化を図った。facebookは、7人のサポーターが毎日記事を投稿するほか、広告配信などで閲覧数拡大を図った。

- ・スマートフォンアプリLINEでマールくんスタンプを頒布し、若い世代での糖尿病のイメージ転換を狙った。

5-6 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

関係する製薬・医療機器企業と協働して、下記の取組みを行った。

- ・糖尿病用注射剤の製剤区分表示

注射剤の取り違えのリスクを減らすために、共通製剤区分マークのラベル表示を進め、3月末に該当する全製剤で対応が完了した。

- ・血糖自己測定器の保守点検

測定値の信頼性を確保するために、医療機関向け保守点検啓発パンフレットや使用開始日シールを作成し、機器の保守点検の必要性についての情報提供を行った。

- ・在宅医療廃棄物の適正処理

針刺し事故などを防ぐために、在宅医療廃棄物の適正処理啓発リーフレットの作成を進めた。

- ・検査時のインスリンポンプ・持続血糖測定器等の取扱いの注意喚起

X線、CT、MRIなどの検査による機器の不具合を防ぐために、患者・医療者それぞれに検査時の適正な取り扱いを注意喚起するポスター・リーフレットを作成し、情報提供を行った。

(6) 業務の適正を確保するために必要な体制の整備

- ・平成29年4月23日の第1回通常理事会にて、事業組織活性化の目的で啓発委員会の位置付けを見直し、諸委員会を統括する役割を持つ企画啓発委員会に改編した。
- ・同理事会にて、利益相反（COI）に関する指針の細則を変更した。
- ・平成29年5月28日の定時総会にて、会費に関する規則を変更した。
- ・平成29年9月23日の第2回通常理事会にて、日糖協・ライオンズクラブ国際協会合同委員会を設置した。
- ・平成30年2月4日の第3回通常理事会にて、表彰規則を変更した。

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。